



# さくくら RA



JUNE..20 8

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

あけまして  
おめでとうございます

## ビーバー隊

## 12月3日 クリスマス会準備

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

今年のカブ隊と合同クリスマス会は例年通りスタンツをやるのですが、今年は少し趣向を変えてみました。例年は台本全てをリーダーが作り、スカウトはお面などの仕事を準備にあてていましたが、今年はなんと、スカウトにスタンツの一部を考えてもらうことにしました。私が選んだのはマッチ売りの少女、暗さが否めない作品ですが、マッチを擦って見える景色を考えてもらうことにしました。内容は今年の活動で最も楽しかったこと、辛かったことを多数決で決めました。結果、楽しかったことはドッチボール大会、辛かったのは雨の中の果樹園でした！

チームを分けて、それぞれ楽しかったこと、辛かったことを再現してもらいます。ただ、やはり少し高度だったみたいで、リーダーが随分サポートしましたが、何とかスタンツに仕上がりました。

カブ隊、ボーイ隊になってもボーイスカウトではスタンツは結構重要です。楽しかったこと、辛かったことを表現する訓練にはなったと思います。また、リーダーの立場では、こうしてスカウトからプログラムの評価を聞くことがなかったため、それはそれで参考になりました。



## 12月17日 クリスマス会

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

カブ隊と合同のクリスマス会本番です。例年通りカブ隊の組に分散して加わり、ゲームなどお兄さんと一緒に楽しめます。開会前のカブ隊の集合での、リース、うさぎ一、しーかー、くーま、に興味津々。こうして合同行事を行うと、スカウトにとってもカブやボーイがどんな集合をしているのか知ることができるいい機会です。(カブ隊スカウト諸君、ビーバーの目があるからいつも通りでしょうが、しっかりやりましょう！)

組別スタンツやソング、ゲームを楽しんだ後はいよいよビーバー隊のスタンツです。少し緊張したせいか、声が小さかったりもしましたが、よく出来たと思います。

全体プログラム終了後は楽しみにしていたプレゼント交換、そして、いよいよ今年ラストの解散です。クリスマスとお正月を終え、新年また元気に集まってくれそうです♪

最後になりましたが、保護者の方、リーダーの方、今年もありがとうございました！来年もまた宜しくお願いします。





# カブ隊

## 12月3日 クリスマス会準備

C S隊副長 本間千香

もう12月です。新年こどもまつりから活動がはじまり2017最後の活動となりました。今年のクリスマス会準備の工作はキャンドルアレンジを作ってもらいました。キャンドルとゆってもLEDのキャンドルのクリスマスアレンジです。今までいろいろな工作をしてきました。今年は男子でもフラワーアレンジとゆうものに挑戦してもらい工作でないものを企画してみました。同じ材料を使っているのに個々それぞれステキなアレンジができ楽しそうに取り掛かっていたので嬉しかったですね。お家でロウソクのスイッチを入れ親子の会話が弾んでくれることを願います。



工作が終わると今年のスタンプのテーマを発表。テーマは「贈り物」になりました。新DLの三人の方も初めてのスタンプなのでとても大変だと思いますが楽しみにしています。

最後に赤鼻のトナカイとあわてんぼうのサンタクロースを本番に向けて歌の練習をし準備会を終えました。

進級するための進歩表を夏の舎営でほぼ監修したかったのですがなかなかその時間も取れず年末になってしまいました。

残り3ヶ月で終わらせたいとおもっておりますのでご家庭でもカブブックの確認をよろしくお願ひ致します。



### 1組うさぎ

今日キャンドルアレンジとスタンプ練習をした。工作は、スポンジを切るのがちょっと難しかったけど楽しくて、うまく出来たと思います。

スタンプ練習では、僕はサンタさんの役になりました。サンタさんの役では、ナマケモノやライオンの役よりもセリフが長くて難しかったです。クリスマス会になったらサンタさんの役を頑張りたいと思います。

### 2組しか

今日の朝みんなは尾山台小に集まり、クリスマス会のじゅんびをしました。

みんなでクリスマス会用のキャンドルとカードを作りました。キャンドルのまわりには、いろいろなかざりをつけました。カードにはトナカイやサンタ、クツシタとプレゼントを描き、デザインできて楽しかったです。



# 12月17日 クリスマス会

C S隊副長 中村静香

2017年 ビーバー&カブ隊合同クリスマス会。今年も早いもので12月。ビーバー&カブの合同クリスマス会の季節がやって来ました。カブ隊は、2週間前に準備としてクリスマスsongの練習、スタンプの練習、そしてクリスマスに困んだ工作を仕上げました。今年、本間副長と思案した結果LEDcandleスタンドを作りました。クリスマス会で飾り、華やかになりました。今年のクリスマス会は、新しく「〇×gestureゲーム」を取り入れました。リーダーが一人ずつジェスチャーをします。(問題)キャベツを切っているかかぼちゃを切っているか 〇か×で答える。といったゲームで、盛り上がりました。ビーバースタンプの「マッチ売りの少女」を演じた保科副長に爆笑し、スカウトのスタンプもデンリーダーのナレーションが無いにも拘わらず台詞をじょうずにハキハキと分かりやすかった2組にスタンプ賞が授与されました。今年も残り少なくなりました。来年も元気に活動に参加しましょう!!



### 1組DL 秋山真一

今年のクリスマス会は、新しくジェスチャー・ゲームをやりました。キャベツとカボチャのどちらを切っているかを当てたり、ソバとラーメンのどちらを食べているかを当てたりします。スカウトたちはほとんど正解していましたが、大いに盛り上がりました。スタンプでは他の組やビーバーたちを巻き込むなどスカウトたちの工夫があって勉強になりました。



### 3組くま

今年で2回目のクリスマス会、プレゼントの交換出来て、とても、うれしかった。朝、眠たかったけど起きて良かった。

### 4組しか

プレゼント交換で消しゴムやシャープペンのはいったふくろをもらいました。いま、学校でつかっています。とてもうれしかったです。





# ボーイ隊

## 12月10日 自転車ハイク@夕日の丘公園

BS隊 カモメ班

今回の自転車ハイクは、ぼくがボーイスカウトに上進してから初めてのことで、ぼくにとって生まれてから初めての長距離サイクリングでもありました。最初は何が待ち受けているのかわからず、少し不安でしたが、ゴール直前の坂を除けば快調に走れ、とても楽しかったのがよかったです。  
幸い、終わった後も筋肉痛にはなりませんでしたが、とても良い思い出が作れたので、次回もまた参加したいです。

BS隊 カモメ班

ハイク出発前、自転車ごと転倒したり、パンクしたりネジ外れて車輪が壊れそうになったりと、色々なトラブルがありました。いざ走り出して見ると特に事故やトラブルは起きず平和にサイクリングを終えることが出来ました。

あ、強いて言うなら俺の尻が痛くなった事くらいですかね。

まあ、そんなこんなで多摩川の土手沿いを楽しく緩やかに走る事が出来たと思います。

小6は今年が初参加で大変だったかと思いますが往復40kmという道程を越える事が出来たという事実はこれからも大きな自信につながると思います。

それだけでも今回の活動はかなり有意義なものになったのではないのでしょうか。

疲れたけれどもその疲れに伴って楽しみもある。

これを体現できる活動は自転車ハイクなど限られた活動のみです。その様な貴重な活動に今後は多く参加できるように班長としても頑張っていきたいです。

BS隊 カモメ班

最近僕は自転車を使う機会がありませんでしたが、今回の機会でも自転車も使えたので、よかったです。長距離だったので、想像以上に疲れましたが、最初よりも2回目の方が自転車をのりこなせるようになった気がします。これからも自転車に乗る機会があると思うので、パンクした時や空気の少ない時などに使える知識なども知っておきたいです。



# 12月16~17日 オーバーナイトハイク @三浦半島

BS隊 カモメ班

ぼくは今回オーバーナイトハイクに初めて参加しました。

最初は、歩いている時に眠くなったりしないか少し不安でしたが、そのような事は起こらず、とても楽しく歩きました。深夜のカップうどんも最高でした。

ただ、朝は予想以上に冷え込み、かなり寒く感じたので、次回はもっとしっかり防寒対策をしようと思いました。

次回もまた参加したいです。

BS隊 オットセイ班

今後の活動予定でオーバーナイトハイクと聞かされた時に心が弾んだ。いつからだろうか、単純に考えれば20kmを超える距離を一晩中起きて完歩するわけだから心が弾む理由などどこにもない。ではなぜ僕は、、

中学に入って夜更しをすることも増え夜に強くなったのもひとつの理由かもしれない。ただ一番大きいのは物事の楽しみ方が多少なりとも変わったからなのかもしれない。オーバーナイトハイクでは朝日に共にゴールを迎えることが多い。非常に達成感のあるものだ。(そういった意味では交通整備などの活動は嫌いだ)今回もゴールしたあとに日の出を海で過ごすという貴重な体験をした。ついつい、シャッターを切る回数が多くなった。「歩いて良かった」という思いがとても強かった。そのような好印象を持つからこそ行きたくなるのだ。来年は僕はいないけれど後輩の人達にはこの楽しさを忘れずにボーイスカウトというものを楽しん

でもらいたいと思う自分がいた。

BS隊 トナカイ班

ぼくは、今回初めてのオーバーナイトハイクで、ねむいのをがまんしてがんばって歩きました。

予想していた以上に登り坂や山がきつくて、汗もたくさん出て体が冷えました。

また、水も足りなくなるぐらいになったけど、がんばってみんなといっしょに歩きました。

18kmがこんなにきついとは思ってなくてねむい気持ちよりも足のつらさが勝ってしまい、全然ねむくなりませんでした。

とてもきつかったけれど、くつずれなく、楽しく活動できたので良かったです。

BS隊 オットセイ班

夜9時集合はぼくが毎日完全就寝の時間だったので、驚きました。

しかし、電車に乗り、歩き出すと眠気も吹き飛び、友達や先輩達と仲良く楽しく、歩くことが出来ました。ゴールに朝早く付き、朝日をみんなで眺めたのはとても気持ち良かったです。

次回のオーバーナイトにも出たいです。

BS隊 オットセイ班

今年のオーバーナイトハイクは昨年より参加が多くと





でも楽しかったです。

去年は靴づれをしたので 今年バンソウコウをはって挑んだのですが 今年も靴づれをしました。来年のためにいろいろ考えたいと思います。活動はたくさんいる方が楽しいです。

BS隊 オットセイ班

今回初めてオーバーナイトハイクに参加しましたが、無事に完歩することができました。途中、眠くなりながら夜中歩いて、最後に見た朝日はとても印象に残っています。良い経験が出来ました。

BS隊 オットセイ班

今回のオーバーナイトハイクは、初めてだったので歩き切ることを目標にしました。準備の段階では、服装も悩みましたが、色々あった末歩き始めました。最初は、寒いこともなく順調でした。しかし、だんだんと寒さが増し、風も冷たくなってあるくのがきつくなりました。夜食の休憩は、うどんが、寒かったせいか、とても美味しかったです。しかしそのあとに200メートルの高さのある山に登るところがありました。200メートルというところまで高くない山だと思います。でも、登山は、夜である。とても急斜面。滑りやすい。山の起伏が激しい。という条件でとても疲れしました。また登頂しても休憩時間がとにかく寒かったので辛かったです。下山は案外楽でした。下山の後は、とても眠かったです。ゴールまえになったと思って、なかなかゴールが見つからなかった時は、辛かったです。最後は、朝日も見れて、歩ききれてよかったと思います。いい体験になりました。

BS隊 カモメ班

今回、初めてオーバーナイトハイクに参加しました。歩きながら寝ないか心配でしたが、無事に終わりあることができました。(休憩では寝た)夜の山道から見る夜景はとてもきれいでした。途中で食べたカレーうどんがとてもおいしく感じた。

BS隊 カモメ班

寝なくても大丈夫とおもっていましたが、やはり寝てきた方が良かったのかもしれない。それは山の中でめっちゃくちゃ眠かったのですが、ローバー隊のスマホでかけた音楽で眠気が覚めました。今回は初めての班長だったので、疲れているところは見せたくないと思っていましたが、疲れを出してしまいました。ですが、最後のゴールの海でたのしく遊べたので、疲れていたのがすべてふっとびました。とてもきれいな海でたのしかったです。



## ローバー隊

ローバー隊 松谷康太郎

「ローバースカウト完全内定マニュアル」

吾輩はボーイスカウトである。そして、もうすぐ就活生になる。

来年から就職活動(就活)が始まる。

ほとんどのスカウトには「就活」が何か分からないだろうから、説明しよう。就活とは、自分が希望する会社に入るため、筆記や面接などのテストを受けてその会社から「合格」を得るための一連の活動のこと。つまり、会社版入学試験のようなものだ。

特に面接は、他の受験生に差をつけるために自分をアピールするチャンスである。そしてその面接では、学校での勉強とは別に、どのような課外活動(勉強以外の活動)をしてきたかがポイントとなる。

今のベンチャー以下のスカウトにとって、就活はまだまだ先の事に思えるかもしれない。しかしこれから書くことは、軽く目を通すのではなくしっかりと読んでほしい。君たちにとって、とても重要なことだからだ。

ボーイスカウト活動は、就活で、武器になる。

私は今まで、ボーイスカウト以外の課外活動をあまりやってこなかった。やったとしても長続きはしなかった。課外活動をしていないことは、就活面接では大変に不利である。アピールポイントが無くなるからだ。

スポーツや音楽のような課外活動をやってこなかった私は、面接ではボーイスカウトの話をするしかない。それは就活において不利だと思っていた。ボーイスカウト活動が強いアピールポイントになるとは思えなかったからだ。

ところがどうして、私は気づいた。ボーイスカウト活動は武器になる。

なぜか？

それは、野球や音楽と違って、(少なくともローバースカウトの)経験者数が少なく、また(それが故に)、課外活動としてオリジナリティがあるからだ。このオリジナリティをうまく活かせれば、面接でのアピール力は絶大である。だから、ボーイスカウト活動は、就活で、武器になる。

しかし面接官は、ボーイスカウトと聞いてどういう団体かすぐ理解できるだろうか？ 名前は聞いたことがあっても、ボーイスカウトという団体の中身まで知っている人は少ないだろう。「奉仕活動やキャンプをする団体」ではあまりパッとしない説明だし、「自ら率先して幸福な人生を切り開き、社会の発展の先頭に立

とうとする少年」という紋切り型の言葉では、大切なことは何も伝わらない。

結局、自らの経験に基づく血の通った言葉でなければ、面接官には見透かされる。自分から浮いた言葉をいくら繋げても、ダラダラとしたつまらない話にならない。それでは、何もアピールにならない。

間違っではいけない。面接官に分かってもらいたいのは、ボーイスカウトの本質ではない(少なくとも、それがメインではない)。分かってもらいたいのは、この私の「良さ」なのだ。だから、ボーイスカウトについて、いくら「正しい説明」をしても無意味だ。「説明」ではなく、「語り」をする必要がある。

では、具体的には何を話せばいいのか？ もちろんそれは、それぞれのスカウト毎に異なる。この私の「良さ」を分かってもらうのだから、人によって異なっていなければむしろおかし。

私の場合は、ボーイスカウトの早い段階で学ぶリーダーシップを軸にして、自らの経験を話す。ボーイスカウトでは、カブスカウトから班長や次長といった役職を担うが、そんなに早く積極性や責任感が求められる役割を与えられる活動は、他にあまり無いと思う。

話の軸は大事だ。それも、面接官が気に入りそうな軸を設定することが重要である。そのような戦略は、いかにも小賢しいもののように思われるけれども、話の構造を言葉を使って作るというのは、そういうある種の「インチキくささ」を伴うものなのだ。それはむしろ、言葉を使うことの強みとしてポジティブに捉えるべき「インチキさ」とも言える。

そのような話の軸に、この私の具体的な経験を肉付けしていく。私のリーダーシップという軸に対する具体例には、ジャンボリーやキャンボリー、自転車ハイクやスキューバダイビングなどの活動の中から、この私の「良さ」が最も上手く簡潔に面接官に伝わるものを選ぶ。そのときの面接の流れに応じて、柔軟にエピソードを選べるようになっているのが理想である。

話の軸がしっかりしていて、エピソードも適切に選択されている。これで面接での語りはバッチリだろうか？

そうではない。面接官は話の内容と同程度かそれ以上の関心を、話しているこの私の「雰囲気」に向けている。つまり「良さそうな」話し方や態度をしているかどうかを見ている。

面接官に好印象を持ってもらうためには、「語り」が自信に満ちていなければならない。実際には参加していない活動をでっち上げたり、参加していたとしても主體的・能動的・積極的でなかったならば、十分に「良い」雰囲気を醸し出すことはできない。先に述べた



「血の通った言葉」を獲得するためには、堂々と胸を張れるだけの豊かな経験を、自ら実施・参加していかなければならないのだ。

ベンチャー以下のスカウトは、スカウト活動の中でスキューバダイビング等をやることは無いと思う。それもそのはず、ボーイ隊までは、ほとんどリーダー達が活動内容を決めているからだ。

しかしベンチャー以上になると、活動は基本的に自身で計画することになる。リーダーもついてこないことがほとんどだ。それは、本当に満足が得られる経験である上、就活面接ではとても強力な武器になるのだ。

現在のベンチャーは、「血の通った言葉」を獲得するに足る活動が少ないように思う。これは本当にもったいないことだ。部活などで忙しいのはわかるが、夏休みや春休みに数日空けるくらいのことは出来るだろう。

そして、誰かが活動を計画しない限りは何も始まらない。他人が言い出すのを待つのではなく、自ら積極的に提案して欲しい。その積極性こそが、就活ではあらゆる場面で活躍するのだ。

ここまで読んでくれれば、君も絶対内定！

…などと、まだ実際に就活を始めていない私が言ってもしょうがない。それこそ就活経験が無いのだから、ここまでの話は「血の通っていない言葉」だ。もうす

////////////////////////////////////

ローバー隊 隊長 渡口要

科学と詩 第1回

あけましておめでとうございます。

2017年は「キャンポリー」と「重力波」の年(?)でした。2018年はどんな年になるでしょうか。今年も様々なことが起こり、色々な情報が入ってくるでしょうが、それらを一々楽しんでいきたいものです。

我々は科学と詩とを、つつい「相容れないもの」として捉えてしまいがちです。学者の「学者らしい喋り」を心の無いロボットのようなと感じたり、芸術家の「芸術家らしい振る舞い」を根拠無く好き勝手やっ

さて、新連載です。2018年は、昨年の【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】でほとんど見過ごされてきた、ある対立について考えます。

それは、「科学」と「詩」の対立です。

昨年のエッセイを読んでくれたスカウトは、「アインシュタイン」が観察と推論を通して「B-P」と結びつけることをある程度納得してくれたと思います。

しかしそれでも、何か違和感が残っているのではな

ぐ就活生に、そしてその先で(きっと)社会人になる私は、今現在は大学生に過ぎない。

ここまでの話をひっくり返すようだが、大学生というのは、「血の通っていない言葉」を使って、自分の経験に基づかない「浮いた語り」をしても許される存在だと思う。許されるから、言葉の「インチキさ」を上手に使いこなすためのトレーニングができる。それが大学生の特権なのだ。

主体的・能動的・積極的にスカウト活動に参加した経験と、言葉の「インチキさ」を使いこなす能力。この2つが合わさった時、就活面接はきっと成功する。それどころかその2つの融合は、就活面接に限らず、これからの人生の様々な場面に何かしらの形で影響を与えていくものなのだと思う。

最後に自分が言うのも何だが、学生生活はあっという間に過ぎる。私は大学生という最期の学生生活を送っているから、そのことを強く感じる。まだ時間があるからといって後伸ばしにすると、後々痛い目をみるだろう。

こうやって、仲間たちと活動できるのも学生の時だけ。社会人になったら今みたいな時間はずっと少なくなるだろう。だから、君たちには今のうちにボーイスカウトをエンジョイして欲しい。それは、就活面接に役立つのみならず、君たちの人生をきっと豊かにするはずだから。

いでしょうか？それは、科学や数学、あるいは理論や論理や合理性といった「お堅い」領域と、アウトドアやアート、あるいは実践や美や感受性といった「柔らかない」領域のイメージが、どうにも結びつかないことからくる違和感ではないでしょうか？

ここでは、前者のお堅い領域のイメージを「科学」、後者の柔らかない領域のイメージを「詩」と呼びます。

我々は科学と詩とを、つつい「相容れないもの」として捉えてしまいがちです。学者の「学者らしい喋り」を心の無いロボットのようなと感じたり、芸術家の「芸術家らしい振る舞い」を根拠無く好き勝手やっ

ここでは、前者のお堅い領域のイメージを「科学」、後者の柔らかない領域のイメージを「詩」と呼びます。

我々は科学と詩とを、つつい「相容れないもの」として捉えてしまいがちです。学者の「学者らしい喋り」を心の無いロボットのようなと感じたり、芸術家の「芸術家らしい振る舞い」を根拠無く好き勝手やっ

あるいは学生時代に算数・数学が苦手だった人が「数学…うえ」とか「数学とか全然分からないっす(笑)」とか言う時の、その言葉の背後に見え隠れする数学への憎悪や、いわゆる「頭の良い人」が友達や恋人やパートナーの「感情的な反応」をバツサリ切り捨てる時の冷酷さに、この「相容れなさ」が現れています。

あるいは学生時代に算数・数学が苦手だった人が「数学…うえ」とか「数学とか全然分からないっす(笑)」とか言う時の、その言葉の背後に見え隠れする数学への憎悪や、いわゆる「頭の良い人」が友達や恋人やパートナーの「感情的な反応」をバツサリ切り捨てる時の冷酷さに、この「相容れなさ」が現れています。

あるいは学生時代に算数・数学が苦手だった人が「数学…うえ」とか「数学とか全然分からないっす(笑)」とか言う時の、その言葉の背後に見え隠れする数学への憎悪や、いわゆる「頭の良い人」が友達や恋人やパートナーの「感情的な反応」をバツサリ切り捨てる時の冷酷さに、この「相容れなさ」が現れています。

しかしそれは本当に相容れないのでしょうか？

そんなことはありません。そんなことは無いのですが、しかし科学と詩の「相容れない感じ」をサッパリ拭い去るのはなかなか難しい。難しいですが、拭い去ることができれば、世界の見え方は素晴らしく豊かになるはずです。ですから、これからこの連載で行うことは、この「相容れない感じ」を少しでも消す試みなのです。

色々な話題を展開することになるでしょう。

おそらく、谷川俊太郎の話をします。ナイチンゲールの話をします。SFの話をします。しかし、最も重要な参照先は、やはりB-Pです。

B-Pの人生哲学、B-Pの名前、B-Pの父が、科学と詩を結びつけることになるはずです。

B-Pが科学と詩の融合を目指していたことを示す、あるいは「捏造する」ことが、さくらで本連載を行う意義だと思っています。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作から話を始めたいと思います。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

私はローバー隊の隊長ですが、18歳から25歳までの「大人の」スカウトを意味する「ローバー (Rover)」は、B-Pのこの著作からとられています。

ちなみに、ローバー隊長は英語では“Rover Advisor”と言います。ビーバー隊からベンチャー隊までの各隊長は“Leader”なのにローバー隊長だけ“Advisor”と呼ばれるのは、スカウトの中でローバー (Rover) が大人と見做されていることを意味しているのです。

では“Rover”とはどういう意味でしょうか？

では“Rover”とはどういう意味でしょうか？

ボーイスカウト運動において、“Rover”は「人生の旅

人」を意味しています。したがって、“Rovering to Success”は「人生の成功を目指す旅」というような意味になります。この本に出てくる「自分のカヌーは自分で漕げ (Paddle your own canoe)」という有名な言葉は、人生の成功という目標に向かって“rovering”するための心構えを表しているのです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

さて、この“rover”という単語ですが、本来の意味は「さまよう人」です。別の英語では“wanderer”とも表現できます。この本来の意味から転じて、「浮浪者」や「海賊」といった意味もあります。しかしここで面白いのは、「惑星探査車」あるいは「(GPSにおける)移動局」という意味があることです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

また、2016年さくら3月号の測量の話で紹介した映画『オデッセイ』は火星が舞台ですが、そこでは人間が乗る“Mars rover”が活躍します。

では、内容に入りましょう。【B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタインー観察と推論ー】を『Scouting for Boys』から始めたように、今回もB-Pの著作は、この2冊だけです。

これらの漫画や映画を観れば、地球外惑星という「未開の地 (frontier)」を舞台にしたSF作品において、“rover”がしばしば「開拓者 (pioneer)」のイメージを伴って描かれ、重要な役割を果たすことが分かるでしょう。“rover”は「勇敢」なのです。

## 2.2. 移動局

つづいて移動局とは何か説明しましょう。移動局とは、2017年さくら9月号：【10. アインシュタインの重力】で紹介したGPSにおいては、移動しながら信号を発信する、位置を特定するべき対象のことを指します。

例えば皆さんがスマートフォンのGPSを使って自分の現在位置を確認する場合には、皆さん自身（正確にはスマートフォン）が移動局（rover）です。あるいは、カーナビを使っている場合には車が移動局（rover）ということになります。

GPSを使ったことがあれば分かる通り、移動局は「ふらふら」しています。すなわち、科学の力で位置を把握するべきふらふらした対象、というイメージで“rover”という単語が使われているわけです。

このような位置の把握のことを「測位（positioning）」と言います。「位置を測る」ということです。この単語を使えば、GPSにおける移動局（rover）は、「ふらふらと気まぐれに動いていながら、常に測位され管理され続ける存在」と説明することが出来ます。

以上の2つ、惑星探査車と（GPSの）移動局としての“rover”のイメージは重要です。

B-Pが“Rover”と言うとき、まず第一に「ふらふらした人生のさまよい人」という意味があります。「自分探し」のようなイメージです。

しかしその自分探しは、不安の中で闇雲に行われるものではありません。惑星探査車のような開拓者（pioneer）であること、そして（GPSの）移動局のような測位され続ける存在であること。それはB-Pが、“Rover”は勇敢かつ慎重であるべき、あるいは、自立かつ自律したスカウトであるべきだと、そのように考えたことを意味しているように思われるのです。

もちろん、B-Pが“Rovering to Success”を著した1922年には惑星探査車も（GPSの）移動局もありませんから、B-Pがこれらのイメージを“Rover”に込めたというのはある種の捏造です。しかし“Rovering to Success”のような「古典」を読むときにはこのような捏造こそが必要である、ということは2017年さくら12月号：【14. 2017年ノーベル賞についての連想ゲーム】の最後で書いた通りです。

そう、“Rover”は常に新しく、常に活き活きとした姿でイメージされ続けなければならない。さらにもう1歩イメージを進めてみましょう。

（GPSの）移動局は測位される存在であると言いましたが、測位よりもさらに抽象的な言葉として「定位」があります。測位が「位置を測る」のに対して、定位には「位置や時間、さらには周りの人間関係や自分の置かれた状況を正確に把握する」という、より広いニュアンスがあります。

2017年さくら9月号：【10. アインシュタインの重力】において、GPSは実は位置とともに時間も精密に測定していることを説明しました。そうであるならば、（GPSの）移動局である“rover”は、測位というよりも定位されるべき存在なのだとと言ってもよいでしょう。

4次元時空間における自らの位置。そして社会や人間関係や自らの目標の中における状況。それらを常に正確に把握し、自分で自身を定位し続けること。2017年さくら12月号：【14. 2017年ノーベル賞についての連想ゲーム】で紹介した言葉を使えば、自己言及的に定位し続けることを通して、勇敢に（蛮勇ではなく）道を切り開いていく存在。それがB-Pの考えた“Rover”の現代的イメージなのです。

（つづく）

## 会議報告

12月は会議はありませんでした。

## 会議予定

1月7日（日）育成会役員会 尾山台ロイヤルホスト 10:00～  
1月20日（土）団会議・団委員会 尾山台地区会館第1会議室 19:00～

## 〈育成会より〉

～育成会より～

<九品仏バザー参加のお願い>

1月20日（土）11:00～14:00

九品仏参道の餅つき大会にバザー参加をいたします。

当日のお手伝い・献品のご協力をお願い致します。詳細につきましては、前月のさくら12月号をご覧ください。

<九品仏バザーシフト>

ご協力ありがとうございます。

（午前）10:00～12:00

郡司、深津、日色、秋山、大野、三園、村山、佐藤（操）、近藤

（午後）12:00～14:00

石井、菅家、舟橋、磯田、白井、近藤

1月は隊費の集金月です。

10日までにじぶん銀行への振り込みをお願いいたします。今回は登録費も加算して振込が必要です。詳細は、育成会より送付される「振込案内メール」をご覧ください。

